

特別寄稿

生徒を育てるための「ICT機器の導入」を！

「ICT機器」はスマホ・タブレット・ノートPCや汎用コンピュータ・サーバー機器など多岐にわたり、すでに私たちの生活を影で支える必須の存在です。しかし、学校への「ICT機器の導入」については、その是非を問う議論を含めて百家鳴動しながら膠着した状態が長く続きました。コロナ禍も手伝い1人1台端末が実現した現在ですが、トップダウンによる一斉導入は教育現場に混乱を招いています。このような事態の背景にある真因について、以前からICT機器を教育に生かす工夫を重ねてきた筆者（県内公立校教諭）から報告と提言をしていただきました。

学校にパソコンが入って…

もう20年以上も前の話ですが、当時の勤務校に専用教室1部屋分の生徒用パソコンが導入されました。試しに使ってみると、生徒用端末のモニタリングもできるし、教師用端末画面の一斉配信もでき、教師用パソコンの中には様々な先進的なソフトウェアも入っています。私は当時から「学校でコンピュータを使った学習ができるようになればいい」と考えていたので、どう使うか、また、他の先生方がどんな使い方をするのか、相当な期待を持って状況を見ていました。ところが、いつまで経ってもコンピュータを使い始める気配がありません。どうしたのかと思い教頭に尋ねると、「生徒に使わせると壊すからさあ、使わせられねえんだよ」との答え。私は冗談のようなこの言葉に心底びっくりしました。その後も一向に使われる気配がないので、私は週に一回あるゼミ（その高校ではかつての必修クラブをこう言っていた）で、生徒に自分のホームページを作らせてみようと思い、情報機器管理担当の先生に相談しました。その方は私より若く、ハードにもソフトにも詳しいので話に乗ってくれるだろうと思ったのです。しかし反応は芳しくなく、しばらく話をした後「それでは企画書を書いてください」と言いました。まるで管理職が言うようなその言葉に私は2度びっくり。結局、企画書を書きましたが、このやりとりから「コンピュータ室は使わせたくない」というニュアンスを感じましたので、これは係経由だと話が進まないと感じ、校長にも企画書を直接出しました。校長は大学教授兼任の人で、企画書の内容一本でスパッと判断してくれると思った

のです。果たして私の勘が当たり、滞りなくゼミを開設することができました。

さて、これがふた昔ほど前の出来事となった今、機器の進化は著しく、ソフトウェアも使いやすくなり、どんな仕事をするにしても、ICT機器を使わずに済ますことはできません。日常生活でも、30代以下では「スマホなしの生活は考えられない」という人々が大半を占める時代になりました。スマホは単なる通信機器ではなく、高性能コンピュータの小型版ですし、タブレットは実質的に「スマホの画面大きい版」ですから、有用で正しい使い方を身に付けさせなければ、まさに宝の持ち腐れになります。また有用であればあるほど同時に危険性も高くなるというのが道具の常ですから、危険を回避する方法とともに使用倫理をも含めた総合的な教育を学校でもきちんと行うことは必要不可欠です。

意識・状況は二十年前のまま

そうした背景の中、鳴り物入りで始まったGIGAスクール構想・1人1台端末の導入。新型コロナウイルスの感染拡大もあり、一気にことが進みました。この過剰なスピードによる弊害も大変大きいと感じますが、また一方で、現場の状況・意識が、先ほど述べた20年前の様子とほとんど変わっていないことで困難を感じる場面も多々あります。

その問題点を私なりに整理すると次のようになるかと思います。

①学校内外の、ICT教育導入に向けての協力体制が整っていない。

例えば、「BYOD(*1)だから関係ない」と事務室が予算の相談に乗らず、端末が届いても置き場がな

いため、係の教員が工作をして置き場を作らされたということがありました。この人はこの仕事を丸投げされたことや、それ以前の情報係としての過重な仕事もあり「このまま係をやっていたらこの上何をやらされるかわからない」ということで相当なストレスを抱え、結局年度の終わりに係を降りました。また、端末が届きWi-Fiの設備も整っていても、県との連絡調整に齟齬が生じ、何ヶ月もネットワークに繋ぐことができないということもありました。

②教師が、自身の能力や興味・関心に応じた指導をする環境（自由）が与えられていない。

例えば、個人情報等の管理に神経質なあまり、私物のICT機器を持ちこませないという管理職もいます。写真が趣味で高性能なデジタル一眼レフカメラを持っている人が、その機器の使用を許可されず、学年に2台用意されたカメラ（ゆえに安価で性能も今ひとつ。今は進化著しいスマホのカメラの方がよほど高性能。スマホで写真を撮ればこのカメラを買う必要は全く無かった）で写真を撮らざるを得なく、当然、撮れた写真も満足いくものにならず（生徒にとっても残念）やる気を無くしたということがありました。私の現任校では「私物のパソコン、タブレット、スマホを持ち込むな」という文書も出ています（でもスマホを持ち込むなというのは無理な話で、管理職も使っている）。私も「私物のiPadを持ち込むな」と言われました。しかし私は学校のパソコンには無いソフトを使って仕事をしていますし、スケジュールやさまざまなデータをiPadで管理し、さらに読書もKindle(*2)なので「それは困る」と何度も管理職と話し合いをしました。でも結局、許可にはなりません。管理職は情報漏洩を避けるため、普段からICT機器を使っていないということですが、これでは管理職も含めた教職員のICTリテラシーを高めることができず、生徒にも有効な教育を施すことができません。定年間近の私ですら自分の力を伸ばせず、十分に力も発揮できないと感じているのですから、若くてやる気のある教師にとってのマイナスはどれほど大きいかと思います。

教職員の興味・関心、能力は人それぞれで、得意分野、不得意分野もそれぞれあり、その多様な職員が互いに補完しあって、より高いパフォーマンスを

発揮できる集団（学校）ができると思うのですが、残念ながら現在の学校では、管理職が十分に職員の能力や特性を理解・把握できておらず、また信頼もしていないため、職員は持っている力を十全に発揮できず、意欲も失っています。これは教師、生徒にとって大変不幸なことだと思います。

③生徒が、それぞれの能力・特性に応じて自分の力を伸ばす環境が与えられていない。

教員も様々ですが、生徒も様々です。私がかつて担任した生徒の中には高校在学中に独学で情報処理技術者1種（例えば、英検1級のように合格困難な資格）をとってしまった者もいます。一方で現在の生徒の中にはLineやYouTubeは自在に使えるが、スマホの使い方はそれくらいしか思いつかないという生徒もいます。また、生徒によっては使い方を自分でコントロールできず（例えば、ゲームのやりすぎ）家庭でトラブルを起こしてしまうこともあります。当然ですが、一人ひとりの能力・特性に応じて必要な手立てをしなければなりません。そのためには、教職員が十分に生徒を理解・把握し、また信頼することが必要です。けれども現場に蔓延る大量の無意味な仕事で生徒に向き合う時間が奪われ、生徒それぞれに応じた教育を施す自由も与えられていません。

人が大切にされる環境を！

今回は、ICT機器の導入にまつわる問題点ということで書きましたが、本質的には、①～③はICT機器の導入だけに関することではないでしょう。「生徒を育てる」という最上位の目的達成に向けて、教師、生徒が持っている力を十分に発揮し、協力し合える環境が、今の学校現場では整いきれていない、というのが私の率直な思いです。ありきたりな結論ですが、これを実現するためにはやはり、十分な物理的・心理的な余裕と、人が大切にされる環境が必要なのだと強く思います。（了）

《語註》

* 1 = BringYourOwnDevice の略。個人所有の機器を日常業務に使用すること。購入費負担のほかに情報管理や仕様統一・ルール策定など解決すべき課題が多い。

* 2 = Amazon が販売する電子書籍リーダー、ならびにコンテンツ配信をはじめとする各種サービス。スマホ・タブレット向けのアプリもある。